平成３０年度　松ヶ江北小学校便り

笑　顔

学力特集号

平成30年10月１１日
北九州市立松ヶ江北小学校

平成30年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年４月17日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	・無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられました。 ・文章を、「読むこと」が苦手な傾向が見られました。
国語B	・「書くこと」、「読むこと」において全国平均正答率を上回りました。 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめることが苦手であるなど、全国平均正答率を下回りました。
算数A	・無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられました。 ・除法で表すことができる二つの数量の関係の理解など、「数と計算」が苦手な傾向が見られました。
算数B	・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に，条件に合う図形を見いだす問題など，「図形」が苦手な傾向が見られました。 ・短答式，記述式の問題を中心に，無解答が見られました。
理科	・無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度が見られました。 ・「生命」「地球」といったB区分の問題が苦手で、全国平均正答率を下回りました。

２．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・家で、自分で計画を立てて勉強している児童が多く、全員が、学校の宿題を家で行っています。また、家で授業の予習、復習を行っている児童も多くいます。学習時間も国や県の水準より長い児童が多く、読書時間も長い傾向があります。 ・総合的な学習の時間などを通して、地域について学んだり、地域の人とふれ合ったりする活動をした児童が多くいます。また、地域の行事にも積極的に参加している児童が多く、地域の方に勉強やスポーツを学んでいる児童も多くいます。さらに、ほとんどの児童が地域のボランティア活動に参加しています。 ・理科の学習が好きな児童が多く、すべての児童が自然の中で遊んだり、自然観察を行っています。算数や理科で、学習したことを普段の生活に活用できないか考えている児童も多く、社会に出たときに役に立つと答えている児童も多いですが、理科や科学技術に関する仕事に就きたいという児童はあまり多くありません。 ・自分にはよいところがあると答える児童や、将来の夢や希望をもっていると答えた児童の割合が少ない傾向にあります。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

本校は小規模校であり、様々な配慮を必要とする児童がいます。、一人一人の児童をしっかりと見取り、学習を進めていくよう、全校で共通理解を図っていきます。また、総合的な学習の時間を中心に様々な体験学習を行うこと通して、自分のよいところを見つけたり、将来の夢や希望をもつ児童を増やしていきます。

少人数指導や専科指導などの積極的な活用を図り、学力の向上を図っていきます。

②　家庭生活習慣等に関する取組

早寝早起き朝ごはんなど、家庭での過ごし方に課題がある児童も見られます。学級懇談会や個人懇談会などを通して、家庭との連携を強化していきます。